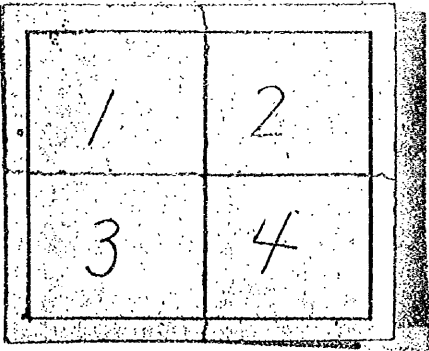


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

寺  
7

新編  
大正  
八年  
七月  
二十  
日

團  
挺  
進  
大  
隊  
全  
隊  
進  
軍

第二八師團挺進大隊全撤概

部隊名	整理番号
128師 挺進大隊	27

團挺進大隊全撤概況級

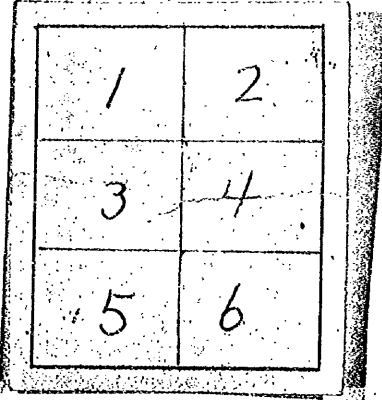
丁 数	件 名	摘 要
1	ノノ師団推進大隊調査経緯一覽表	
2	全般概況	
3	战斗経過概況図	
4	編成及人員交流経路図	
5	資料蒐集状況概況図	
6	編成及把握人員一覽表	
7	人員把握状況一覽表	
8	編成人員の所属部隊一覽表	

索引

復局留守業務部

0580

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0581  
0582  
0583  
0584  
0585  
0586

部隊原簿と共々保存

6

第一二八師団挺進大隊調査経緯一覽表

第一課				調査担当者		官公署	
三軍二班		三軍二班		三軍二班		三軍二班	
北小		尾松		田上		長班	
池		川早		川早		長係	
自昭26.4		自昭26.3		自昭26.3		間期位担	
本部				通信			
一甲				発信			
二甲				答回			
三甲				返有			
2				資有			
9				日次場所出頭者			
8				日次場所出頭者			
19				日次場所出頭者			
10				日次場所出頭者			
昭27.7 (30.31)				日次場所出頭者			
大分				日次場所出頭者			
間宮 榮				出頭者			
平郡 幸俊				出頭者			
松本 榮之助				出頭者			
辛島 國雄				出頭者			
吉泉 稔				出頭者			
岩見 悟				出頭者			
寺田 益雄				出頭者			
堀内 仁寛				出頭者			
野中 玄幸				調査			
西村 玄幸				調査			
榑原 主事				調査			
勝又 幸治官				調査			
大久保 玄幸				調査			

調査せらるる  
通信合調其  
せられたり  
戦斗概況  
を調査し  
たが、  
概況は  
あり



固樞進大隊調査経緯一覽表

昭 三 年 月 日  
第 三 課 三 軍 一 班

調 査

通 信  
信 致  
合 調

調 査 官

成 果 の 概 要

資 料 發 表

發 信  
答 回  
返 戻  
有 資  
日 次  
場 所  
出 頭 者  
日 次  
場 所  
出 頭 者

出 頭 者

二 甲	三 甲	二 甲	一 甲	本 部
		2	9	8
	26	27	19	10

7.29  
乙 覽  
久 保 田 忠 雄

昭 二 七 . 七 . ( 三 〇 . 三 一 )  
分 大

- 間宮 榮
- 平郡 幸俊
- 松本 繁之助
- 平島 國雄
- 古泉 稔
- 岩見 悟
- 寺田 益權
- 堀内 仁亮
- 野中 立幸
- 西村 立幸
- 橋原 主事
- 勝又 事務官
- 大久保 主事

足 嚙 世 流 部

通信、合調其に資料日整理  
せられてい存い  
戦時概況図に當時地圖の  
を以て關係が何れ據るべき根  
據を以て之を方向違の要因と  
あり

2.3 甲隊の各五小隊の概況

表 發 未



一中	本部	二中	一中	不明細部	三中	二中	一中	本部	三中	二中	三中	二中
				54	85	85	83	26				2
				3	22	21	16	3			26	2
					4	8	5	5				
				1	7	10	8					
	29.3.25	28.11.16	28.10.14	昭 28.10.6					昭 27.7.29			
				毛箱					札幌			
福本政藏		磯崎繁雄	成田隆吾	五十嵐芳彦					久保田忠雄 荒戸宣次			
											昭 27	分
											吉泉 松 岩見 悟 寺田 益雄 堀内 仁亮	千島國雄
杉田事務官	宮本事務官	宮本事務官	宮本事務官		杉田事務官	宮本事務官			札幌世法所	勝又事務官 大久保直事		藤原直事
三、四七隊橋本渡也行動群の状況	挺進大隊金瓶及本部の概況	第二中隊四小隊。概況及小隊の人名簿	第一中隊第三小隊三分隊。概況	四各層の一中隊判別	同	同	同	大沼正日隊地配備並に水の關係を考慮 不行き廻り一部。概況判別 隊地配備並に水の關係を考慮 及四各層の一中隊判別	又三中隊の各五小隊の概況			概況判別

表

課

三

班

一

頁

本

田

至

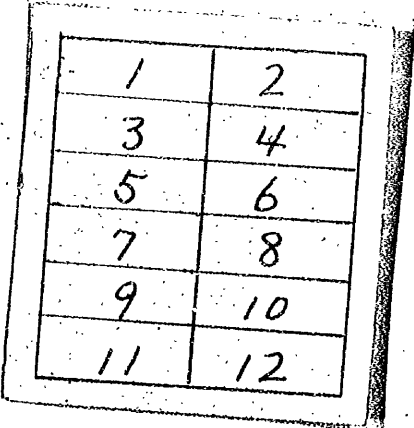


8

6

0587

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊原簿と共ニ保存

# 第一二八師団挺進大隊全般概況

0588  
0589  
0590  
0591  
0592  
0593  
0594  
0595  
0596  
0597  
0598  
0599

編	時期別	資 料 提 供 者			留部第一課	留部第三課	留部第一課
		通信	呼出	調査			
編	一	整理番号	資料区分	概況	経緯	調査事項	取得
編	一	整理番号	資料区分	概況	経緯	調査事項	取得
編	一	整理番号	資料区分	概況	経緯	調査事項	取得

編成人員は主として師団三ヶ歩兵連隊から750名砲工職通信より各100名分隊長の過半数の約100名を要す

昭20年5月城子溝にて編成開始後逐次編入20年7月30日老里山にて編成完了

概況

本 部 大尉 山下俊昭以下一五八

第一二八師団の編成経緯は別表の通りであつて、挺進大隊は昭二十年七月五日城子溝に於て編成に着手し主として師団の各歩兵連隊一部は其の他の部隊の人員を補充を同月三十日老里山に於て編成を完了した

綜 合 資 料

各中隊の通信調査に次いで資料を収集した

昭28.4. 至昭28.10. 既得資料及左記通信調査と完備し、資料を整理した

留部第三課

経緯

山下大尉は昭20年7月5日城子溝に於て編成に着手し主として師団の各歩兵連隊一部は其の他の部隊の人員を補充を同月三十日老里山に於て編成を完了した

編成着手より完結迄の細部の状況

取得

城子溝に於て第一歩兵連隊(昭20年7月5日)に於て編成に着手し主として師団の各歩兵連隊一部は其の他の部隊の人員を補充を同月三十日老里山に於て編成を完了した

昭28.4. 至昭28.10. 既得資料及左記通信調査と完備し、資料を整理した

留部第三課

経緯





期別

号番

区分

概況

総合

資料

備考

要調査事項

取

得

漢

昭和20年5月城子溝にて編成  
爾後逐次編入  
20年7月30日老里にて編成  
完了

第一二八師団の編成経緯は別表の通りであつて、  
挺進大隊は昭和二十年七月五日城子溝に於て編成に着手し、  
主として師団内各步兵連隊の一部は其の他の部隊  
の人員を補充と同月二十日老里に於て編成を完了した

編成着手より  
完了迄の細部  
の状況

城子溝にて第一二八師団の編成に着手し、  
主として師団内各步兵連隊の一部は其の他の部隊  
の人員を補充と同月二十日老里に於て編成を完了した

編成人員は主として師団三ヶ  
步兵連隊から75名砲工職  
通信より各100名分隊長の過  
半数の約40名は旅費幹教  
隊の六月終了者である  
各中隊の第五中隊は工兵  
隊出身者、現召者も編成  
人員の約半数を占むるが挺大  
へ直轄の現召者は長官の  
本部 本部模範隊 約40名  
行李班 160名  
三ヶ中隊 中隊指揮班と五ヶ中隊  
小隊は五ヶ中隊  
計1160名現在掌握人員 868名

各部  
大尉 山下俊昭 (病氣入院)  
大尉 西尾 元 (後任)  
大尉 山下俊昭 (病氣入院)  
大尉 西尾 元 (後任)  
本 部 大尉 山下俊昭 以下一五八  
第一中隊 少尉 相宮 宗 以下三三六  
第二中隊 少尉 鬼頭鐵夫 以下三三六  
第三中隊 中尉 若井修一 以下三三六  
中隊は五ヶ中隊 小隊は五ヶ中隊  
分隊は長以下12名 (11、13名の分隊あり)

人員の検討  
部隊裝備の  
状況

本部行李班  
三ヶ中隊編成(略) 一五八  
各中隊指揮班人員は同様に五ヶ中隊  
中隊指揮班 21名 一ヶ中隊の  
隊には12名 小隊は五ヶ中隊  
本部行李班  
三ヶ中隊編成(略) 一五八

備 装  
負人及隊部出差の爲の編成

Table with columns for personnel counts and unit names (e.g., 本 部, 第一中隊, 第二中隊, 第三中隊, 計).

各部及中  
隊毎の転入  
人員の検討

大連中隊下中隊指揮班の約15名指揮班は(一)子  
小隊は(一)子小隊指揮班は(一)子  
少尉 約15名 大連中隊全隊の約15名(本部行李班  
隊は(一)子小隊指揮班は(一)子  
中隊の約15名(一)子小隊指揮班は(一)子  
本部行李班は(一)子小隊指揮班は(一)子

近 戦 開

Table with columns for personnel counts and unit names (e.g., 計, 転 入, 分 派, 遺 入, 院 計, 橋 要).

分 派

分 派  
入 院  
院 計  
橋 要

編成  
入

師團三ヶ  
砲工職  
分隊長の過  
旅費幹教

旅費幹教

砲工職

分隊長の過

旅費幹教

砲工職

分隊長の過

旅費幹教

砲工職

分隊長の過

旅費幹教

第一二八師團の編成経緯は別表の通りであつて、  
挺進大隊は昭二十七年七月五日城子溝に於て編成に着手し、  
手ごまとして師團内各步兵連隊の一部は其の他の部隊  
の人員を補充するに因り、昭二十八年三月に於て編成を完結した

大隊長 大尉 山下俊昭 (病室入院)  
大尉 西尾元 (後任)

本部 大尉 山下俊昭 以下一五八  
第一中隊 少尉 榎宮 以下三三六  
第二中隊 少尉 鬼頭鐵夫 以下三三六  
第三中隊 中尉 岩井修一 以下三三六

中隊は五ヶ中隊 小隊は五ヶ中隊  
分隊長以下 12名 (11、13名の分隊あり)

各中隊共に小銃は兵の約2/3 其の他は本銃で  
あつて手榴弾は各人7、10發

挺進大隊 283人  
本部 284人  
第一中隊 285人  
第二中隊 128A  
第三中隊 128P  
計 128T  
128銃

本部 計 橋 要  
主として  
歩三三四連より  
主として  
歩二八四連より  
主として  
歩二八五連より

計 250  
250  
250  
110  
100  
100

転居  
分派遣入  
院  
計  
橋  
要

五分の母の

編成着手より  
完結迄の細部  
の状況

人員の検討  
部隊裝備の  
状況

昭二十八年三月に於て編成を完結した  
第一二八師團の編成経緯は別表の通りであつて、  
挺進大隊は昭二十七年七月五日城子溝に於て編成に着手し、  
手ごまとして師團内各步兵連隊の一部は其の他の部隊  
の人員を補充するに因り、昭二十八年三月に於て編成を完結した

山下大尉は昭二十八年三月に於て城子溝に入院  
西尾大尉は昭二十八年三月に於て城子溝に入院

本部指揮班は昭二十八年三月に於て城子溝に  
中隊指揮班は昭二十八年三月に於て城子溝に  
隊は昭二十八年三月に於て城子溝に

本部指揮班は昭二十八年三月に於て城子溝に  
中隊指揮班は昭二十八年三月に於て城子溝に  
隊は昭二十八年三月に於て城子溝に

各中隊共に小銃は兵の約2/3 其の他は本銃で  
あつて手榴弾は各人7、10發

挺進大隊 283人  
本部 284人  
第一中隊 285人  
第二中隊 128A  
第三中隊 128P  
計 128T  
128銃

本部 計 橋 要  
主として  
歩三三四連より  
主として  
歩二八四連より  
主として  
歩二八五連より

計 250  
250  
250  
110  
100  
100

転居  
分派遣入  
院  
計  
橋  
要

五分の母の

編成着手より  
完結迄の細部  
の状況

人員の検討  
部隊裝備の  
状況

(自 昭 20. 7. 5 )  
至 昭 20. 8. 8 )

迄

九	八	七	六	五	
任 務 作 業	戦 役 一 地 戦 作	南 部 隊 の 行 動	通 信 所 3 所 以 下 の 判 定	南 部 隊 の 負 人 等 於 け	出 部 隊 人 員
	駐 地 地 20. 7. 25 より 老 黒 山 へ 駐 此 し 訓 練 中 間 戦 と する	駐 地 地 20. 7. 25 より 老 黒 山 へ 駐 此 し 訓 練 中 間 戦 と する	軍 事 郵 便 所 20. 7. 末迄 城 子 溝 軍 事 郵 便 所 20. 8. 以 降 老 黒 山 七 五 五 郵 便 所 檢 印 一 中 隊 三 中 隊 三 中 隊 略 号 は 各 隊 長 名 を 使 用 し た	軍 事 郵 便 所 及 檢 印 略 号	
挺 進 大 隊 は 頭 道 溝 以 降 師 団 主 陣 地 の 前 方 の 南 へ 挺 進 し 敵 機 甲 部 隊 の 前 進 阻 止 及 敵 の 後 方 を	一 地 形 老 黒 山 - 羅 子 溝 - 大 荒 溝 は 軍 用 道 路 開 通 道 路 以 外 は 險 峻 な る 山 岳 の 大 密 林 地 帯 で あ る 二 気 象 三 住 民 の 動 向 終 戦 後 は 特 に 敵 意 が 甚 大 し い	同 月 二 十 五 日 七 月 五 日 編 成 中 間 戦 時 城 子 溝 の 位 置 同 月 二 十 五 日 老 黒 山 へ 移 動 肉 迫 攻 撃 手 及 乾 込 隊 と し て の 訓 練 中 間 戦 と する 南 部 隊 前 大 隊 長 山 下 大 尉 は 病 氣 の た め 入 院 し た	一 軍 事 郵 便 所 (1) 城 子 溝 駐 地 間 (2) 老 黒 山 駐 地 間 二 留 守 宅 通 信 の 為 に は 軍 事 郵 便 所 名 と 所 属 隊 長 名 の 部 隊 名 を 使 用	計 10 計 約 250 250 250 110 100 100 編 成 及 人 員 交 流 概 況 同 参 照	計 約 250 250 250 110 100 100 編 成 及 人 員 交 流 概 況 同 参 照
任 務 の 再 検 討	地 形 及 気 象 制 係 の 再 確 認	再 検 討	再 検 討	人 員 把 握 区 分 毎 の	人 員 の 検 討

圖 說 一 高 山 地 帯 羅 子 溝 大 荒 溝 山 岳 密 林 地 帯 二 住 民 動 向 三 終 戦 後 敵 意 甚 大 し い

合 流 道 溝 入 院 者 名 簿 一 覧 表 ( 略 )

東二四隊  
東三四隊

計	約 250					
区 分	250					
本部	250					
東一四隊	110					
東二四隊	100					
東三四隊						
計	100					
橋 要						
編成及人員 交流概況 参照						

まともな  
歩二八四連より  
主として  
歩二八五連より

一 軍事郵便所  
 (1) 城子溝駐化間 城子溝七三五郵便所兼付  
 (2) 老黒山駐化間 老黒山七五五郵便所兼付  
 二 留守宅通信の爲には  
 軍事郵便所名と所長隊長名の部隊名を使用

昭和二十一年七月五日編成着手時城子溝の位置は  
 同月二十五日老黒山に移動 内迫攻撃手及輸込隊  
 との訓練中開戦となった  
 開戦前大隊長山下大尉は病氣のため入院した

一 地形  
 老黒山—羅子溝—大荒溝は軍用道路が通  
 道路以外は険峻なる山岳の大密林地帯である  
 二 気象  
 三 住民の動向  
 終戦後は特に敵意が甚だしい

挺進大隊は頭道溝より師団主陣地の前方の南に  
 挺進し敵機甲部隊の前進阻止及敵の後方を

人員の検討

区分毎の  
人員把握

再検討

再検討

地形及気象  
関係の再確  
認

任務の再検討

合流道  
 入院者のうち(一)は路全初下り(二)は入院の  
 者、(三)は(四)は(五)は(六)は(七)は(八)は(九)は(十)は

圖表(一)は(二)は(三)は(四)は(五)は(六)は(七)は(八)は(九)は(十)は

戦後状況

戦及斗後斗戦

八月二日出発  
頭道溝に布陣する

戦斗は四班を溝に通ず。頭道溝の本道路上で敵隊車の攻めに對し肉迫攻撃又は道路破壊を實施す。主道は、敵隊車と肉迫攻撃の直接の人員、肉迫攻撃は僅少と思はれる。  
戦斗は各小隊の独立した戦斗で、其の小隊は二、三の小隊及び中隊各小隊である。他小隊は戦斗して、指下の本部、中隊、小隊各連絡つかず各小隊毎に又は各小隊毎に各三名毎に分隊後退す。

三住民の意向... 終戦後は特に敵意が甚だしい  
挺進大隊は頭道溝より師団主陣地の前方の南に挺進し敵機甲部隊の前進阻止及敵の後方を遮断する

一、大隊は八月九日師団命令を受領し直ぐ疲弱者及大隊行李班を羅子溝に向ひ後退せしめ大隊長山下大尉入院のため、第二中隊長志願中隊が隊長代理となり、出発準備を整え八月十日各小隊毎に頭道溝に向ひ前進八月十日同日に於て後任大隊長西尾大尉着任、陣地配備の命令と下達し各中隊毎に同上に於て指示した地裏に分隊配備についた  
(別紙要圖参照)

二、部隊は任務の關係上、高度の密林地帯に高度分散配備したため、其の後の通信連絡が杜絶した。敵の進撃を多量であつた爲、師団主力の羅子溝に通ずる本道上に近き中隊の一部は道路の破壊及敵隊車に對し肉迫攻撃を實施したが訓練の不充分及装備の不整備の爲、本道上は敵のため一撃に突破せられ、其の他は大部分戦斗もあつたが高度分散のため各中隊共に小隊毎に獨立配備であり、小隊も又分隊毎に分隊も又数名或は二乃至三名の配備であつた。連絡がとれず人員の掌握出来なかつたため、離散集合して山中を彷徨し、小隊単位で行動群は石頭、馬村、東京城、官地等々武装解除され分隊単位又は二、三名の行動群は四班を溝附近、班精、延吉、東京城又は

任務の再検討

一、本部及各小隊毎の分進状況と地形の標定及人員の把握  
二、残留者の人員及行動の細部

小隊単位  
一、配備と地形の關係と地形の標定  
二、各行動群と其の行動の把握

三、死者及行方不明者、伍者の状況の把握

戦後状況... 20(約知を記) 17(約知を記) 大隊二班... 各中隊... 本部... 班精... 延吉... 東京城...

二、大隊の進軍

三位民の誘向... 終戦後は特に敵意が甚だしい

挺進大隊は頭道溝より師団主陣地の前方の圃に挺進し敵機甲部隊の前進阻止及敵の後方を遮断する

一、大隊は八月九日師団命令を受領し直ぐ夜弱者及大隊行李班を四羅子溝に向い後退せしめ大隊長山下大尉入院のため第二中隊長志藤中尉が隊長代理となり出発準備を整え八月十日各中隊毎に頭道溝に向い前進八月十一日同地にて後任大隊長西尾大尉着任 陣地配備の命令と下達し各中隊毎に圃上に於て指す圃に地奥に分散配備についた (別紙要図参照)

二、部隊は任務の關係上高度の未知の森林地帯に高度分散配備したため其の後の通信連絡が杜絶したのと敵の進撃を急であつた為 師団主力の羅子溝に道する本道上に近き中隊の一部は道路の破壊及敵機車に対する迫攻撃を實施し其が訓練の不充分及装備の不完備の爲本道上は敵のため一帯に突破せられ其の他は大きな戦斗もあつたが高度分散のため各中隊毎に小隊毎に獨立配備下あり 小隊と又分隊毎に分隊と又数名或二乃至三名の配備下あつて連絡がとれず人員の掌握出来なかつたため分離散集合して山中を行つた隊員は行動は石頭、馬村、東京城、官地等々武装解除され分隊単位又は二、三名の行動

護

任務の再検討

一、本部及各中隊毎の分進状況と地形の標定及人員の把握  
二、残留者の人員及行動の細部把握

小隊単位  
一、配備と地形の關係を地形の把握する  
二、各行動群と其の行動を把握  
三、死者及行方不明者、伍長の状況把握

戦後調査を終りて各中隊に本部に報告(別紙要図参照) 要領を... (約知多進) 1 (約知多進) 2 (約知多進) 3 (約知多進) 4 (約知多進) 5 (約知多進) 6 (約知多進) 7 (約知多進) 8 (約知多進) 9 (約知多進) 10 (約知多進) 11 (約知多進) 12 (約知多進) 13 (約知多進) 14 (約知多進) 15 (約知多進) 16 (約知多進) 17 (約知多進) 18 (約知多進) 19 (約知多進) 20 (約知多進) 21 (約知多進) 22 (約知多進) 23 (約知多進) 24 (約知多進) 25 (約知多進) 26 (約知多進) 27 (約知多進) 28 (約知多進) 29 (約知多進) 30 (約知多進) 31 (約知多進) 32 (約知多進) 33 (約知多進) 34 (約知多進) 35 (約知多進) 36 (約知多進) 37 (約知多進) 38 (約知多進) 39 (約知多進) 40 (約知多進) 41 (約知多進) 42 (約知多進) 43 (約知多進) 44 (約知多進) 45 (約知多進) 46 (約知多進) 47 (約知多進) 48 (約知多進) 49 (約知多進) 50 (約知多進) 51 (約知多進) 52 (約知多進) 53 (約知多進) 54 (約知多進) 55 (約知多進) 56 (約知多進) 57 (約知多進) 58 (約知多進) 59 (約知多進) 60 (約知多進) 61 (約知多進) 62 (約知多進) 63 (約知多進) 64 (約知多進) 65 (約知多進) 66 (約知多進) 67 (約知多進) 68 (約知多進) 69 (約知多進) 70 (約知多進) 71 (約知多進) 72 (約知多進) 73 (約知多進) 74 (約知多進) 75 (約知多進) 76 (約知多進) 77 (約知多進) 78 (約知多進) 79 (約知多進) 80 (約知多進) 81 (約知多進) 82 (約知多進) 83 (約知多進) 84 (約知多進) 85 (約知多進) 86 (約知多進) 87 (約知多進) 88 (約知多進) 89 (約知多進) 90 (約知多進) 91 (約知多進) 92 (約知多進) 93 (約知多進) 94 (約知多進) 95 (約知多進) 96 (約知多進) 97 (約知多進) 98 (約知多進) 99 (約知多進) 100 (約知多進)

況 状

つかす各々隊毎又は各分  
隊又は各々名毎に分敷  
後述

分隊も又数名或ニ乃至三名の配置であつて  
連絡かたがた人員の密に控出出来なかつたため  
離散隊を命じて山中を行ひ、分隊単位で行  
動群は石頭、馬村、東京城、官地等々武  
装解除され分隊単位又は二、三名の行動  
群は四圍を海附近、注精、延吉、東京城又は  
牡丹江の周辺の廣く範圍の地域で武装を解  
除せられた。

三、北七名及行  
さ不明な後  
伍者の状況  
把握



隊各選給  
又各分  
右各分

小隊毎に獨立配備あり、小隊又分隊毎に  
分隊又教名或ニ乃至三名の配備あり、  
連絡かた概す人員の掌握出来あつた、  
離散集命して山中を彷徨し、小隊單位の行  
動群は石頭、馬村、東京城、官地等、武  
装解除され分隊單位又は二、三名の行動  
群は四野を薄附し、注精、延喜、東京城、又は  
牡丹江の周辺、廣龍團の地域で武装を解  
除せられた。

三、死者及行  
方不明者  
位者、状況  
把握

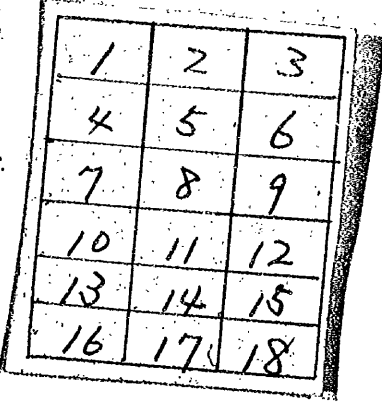




18

0600

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	 <table border="1" data-bbox="742 660 1125 1064"><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr><tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr><tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	2	3																	
4	5	6																	
7	8	9																	
10	11	12																	
13	14	15																	
16	17	18																	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め																		
上記のとおり分割撮影した事を証明する。																			

0601  
0602  
0603  
0604  
0605  
0606  
0607  
0608  
0609  
0610  
0611  
0612  
0613  
0614  
0615  
0616  
0617  
0618

Handwritten mark or signature.

# 策二一

仙					
上					
25	怒	女			
		馬			
	16	城			
		福			
		島			
			3		
				菱	
					17
				城	
					物
13					

茨

17

城

栃木

群馬

東

27

京

東

山梨

10

神奈川

11

埼

21

玉

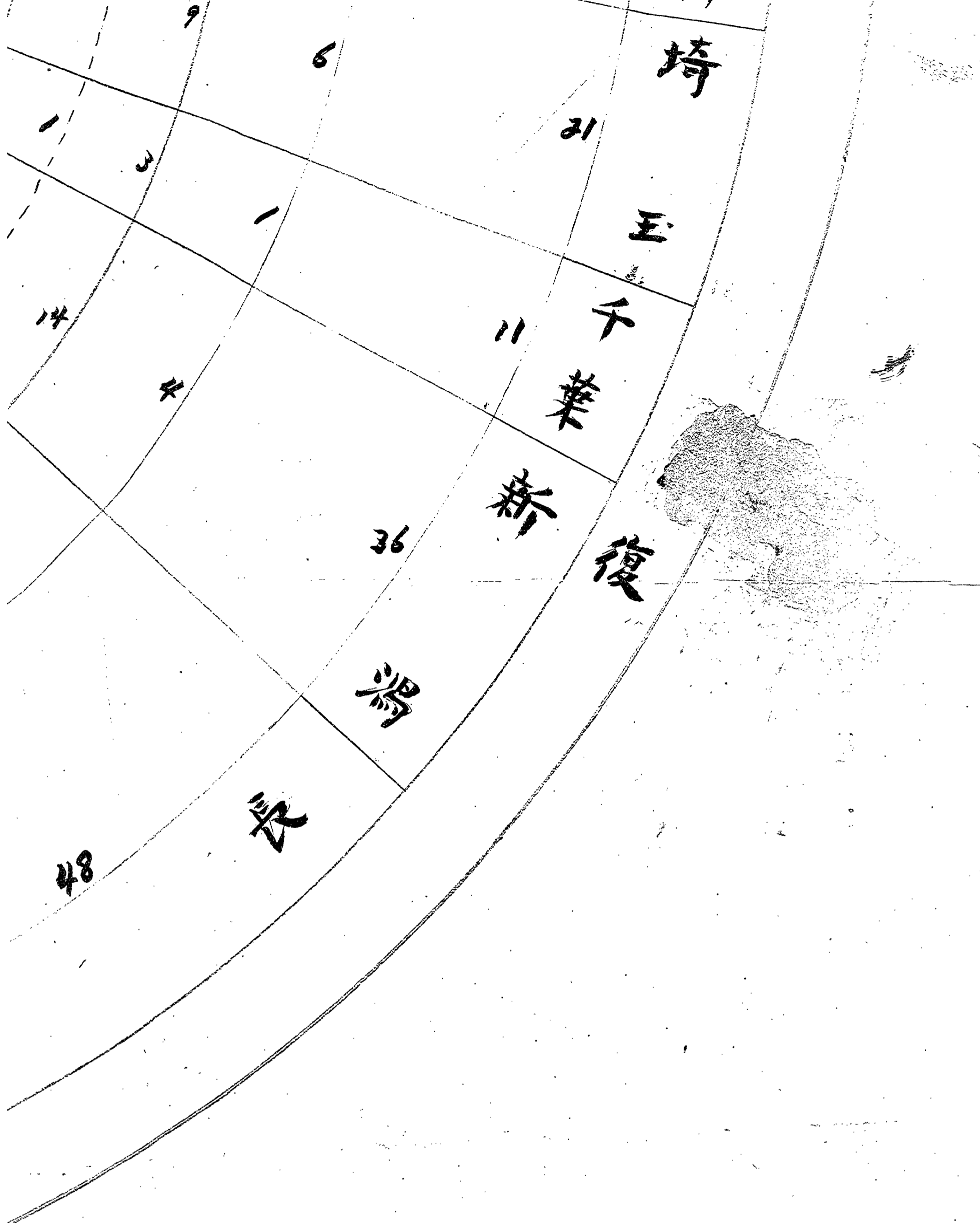
手

11

葉

新

36

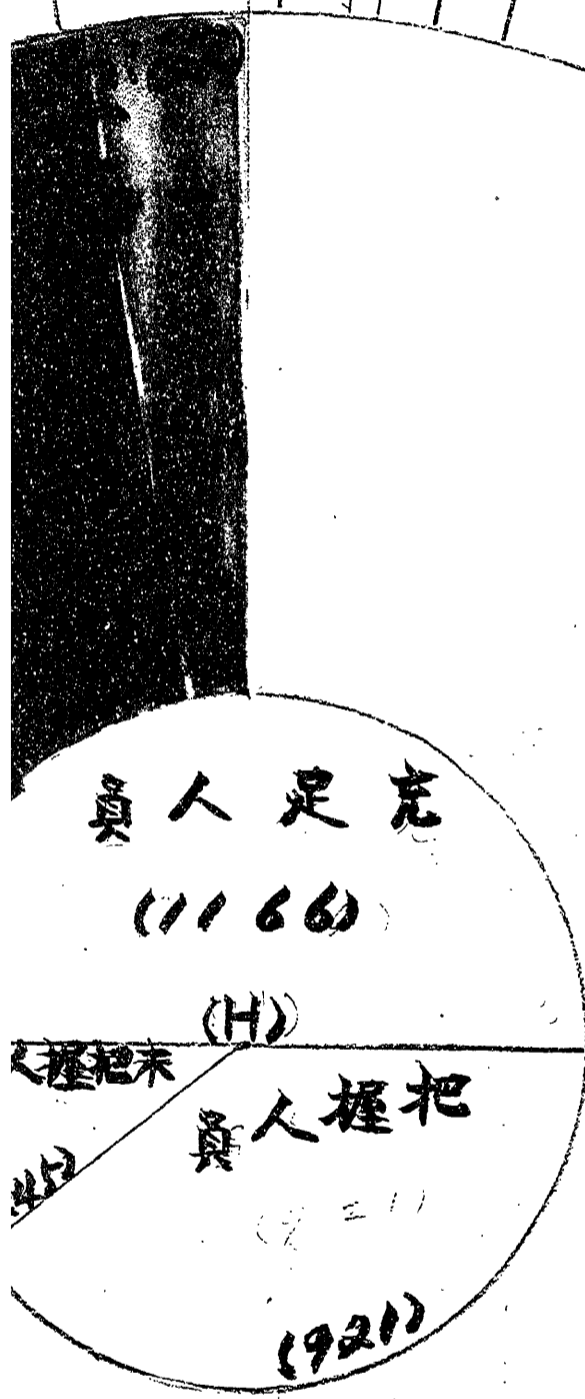


No. 31



# 二八八師團

		北海道課								
		北保	海護	釧路	函館	青森	岩手	秋田	仙	
		長	旭川	札幌	釧路	青森	岩手	秋田	山	
7	4	7	3	8	8	18	10		25	7
5			3	1	1					
20		2	3	1	1	1				
			1	6	7	8		3		
4			1	1		4				
1		2					10			
6		2					2		5	

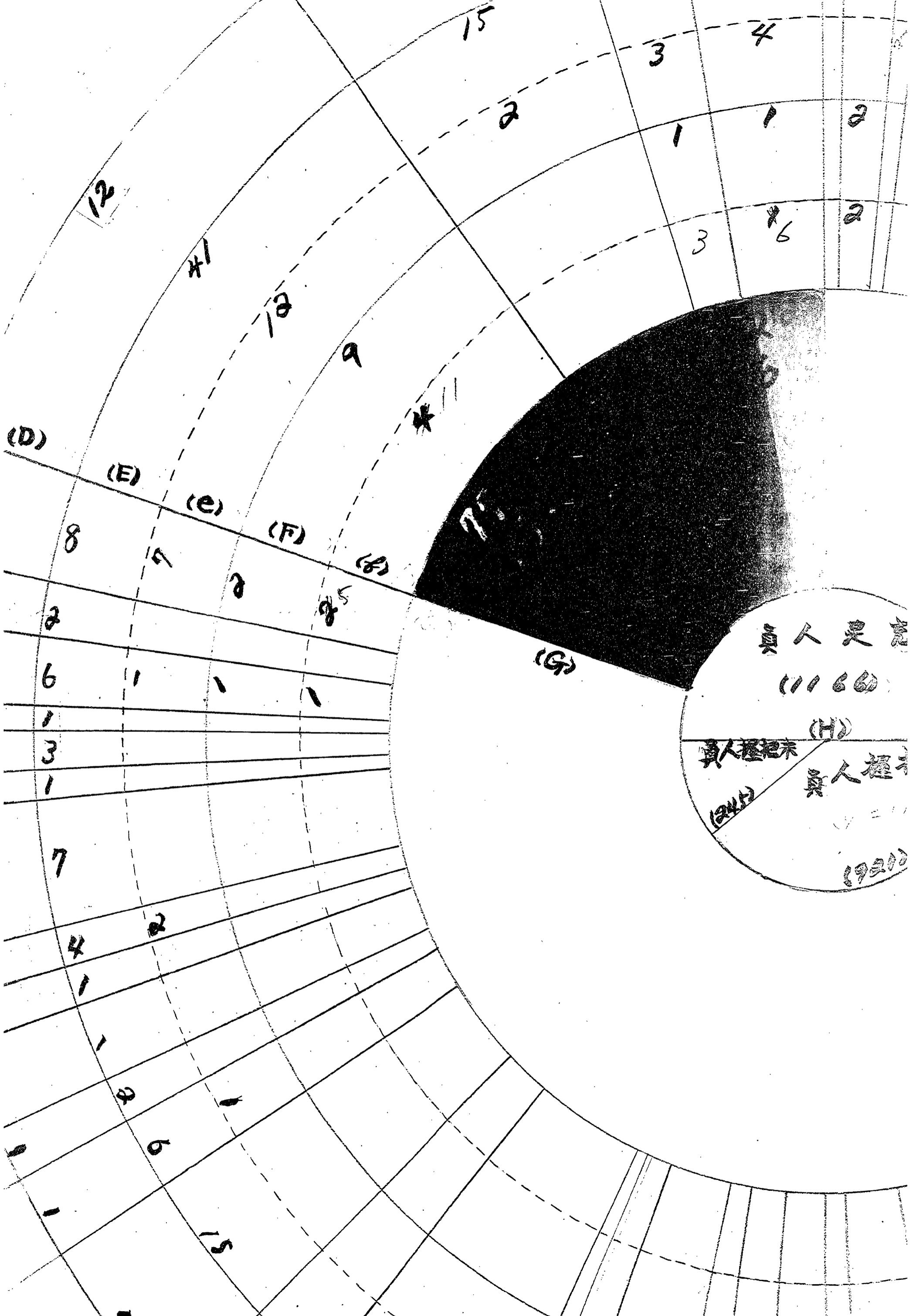


742  
80%

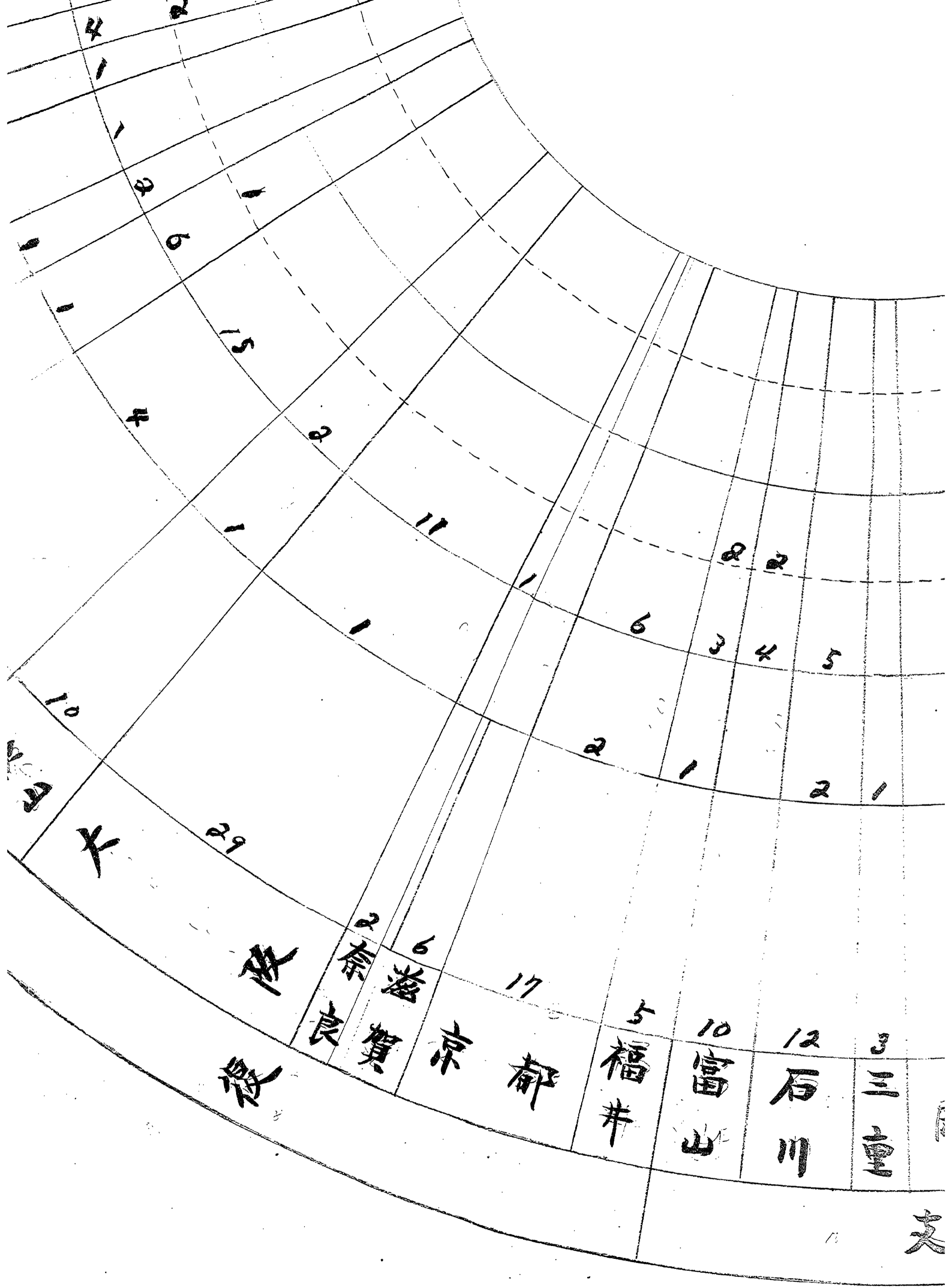


# 團挺進大系

		北保	
		旭	札
西	鹿	崎	長
島	児	賀	佐
25	77	37	4
		5	5
	5		
		11	20
	15		
		3	4
	2		
		1	1
12			2
41			2
2			



眞人史書  
 (1166)  
 (H)  
 眞人歴史  
 (245)  
 眞人歴史  
 (1921)  
 (1922)



後 29  
 良 2  
 實 6  
 京 17  
 都 5  
 福 10  
 井 12  
 山 3  
 石 3  
 川 3  
 三 3  
 重 3

支

# 史料復原隊

分

12

52

福

復

70

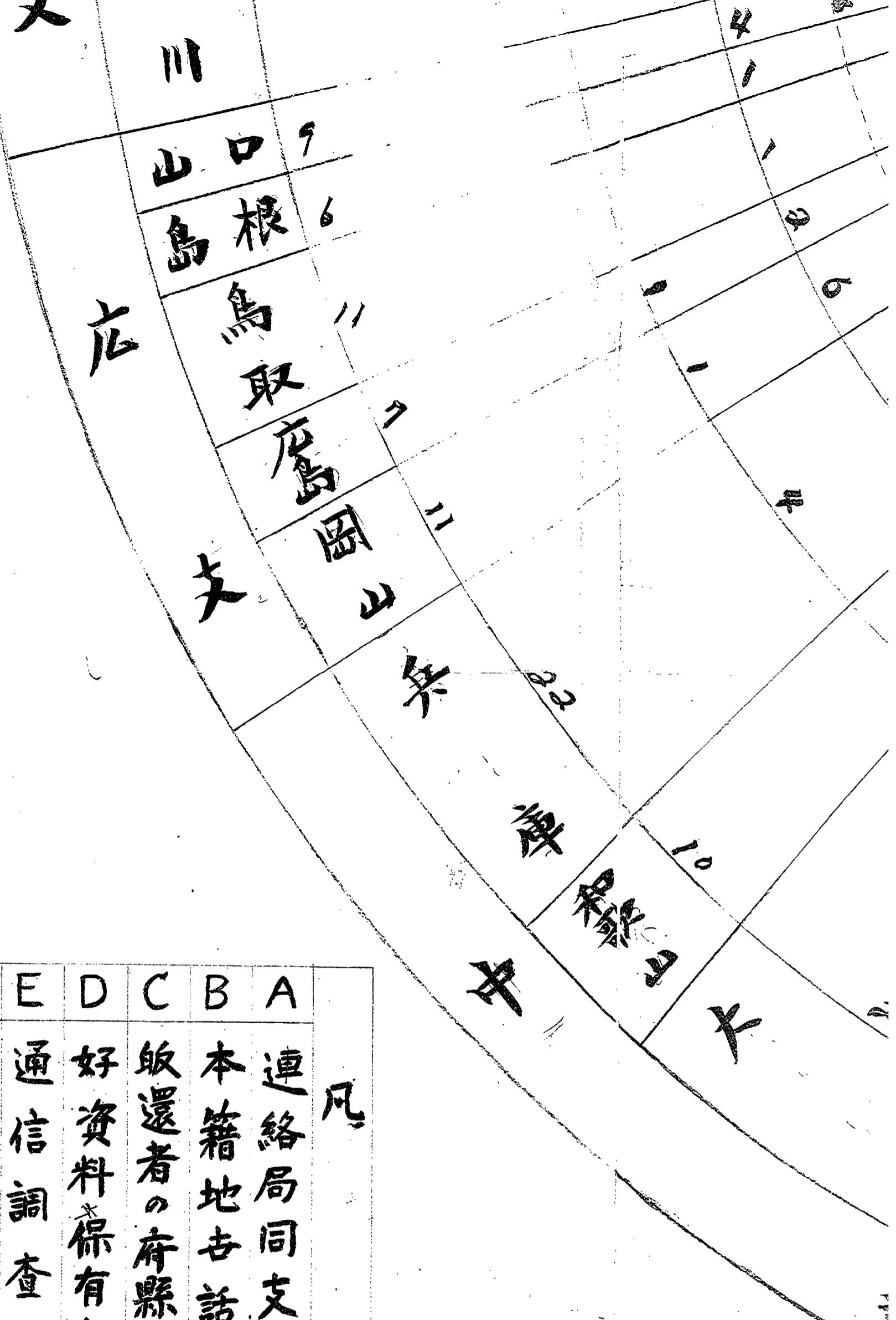
岡

12

(A)

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
		宮崎			
		大分			
		熊本			
善		高知			
		愛媛			
		徳島			
支		香川			
		山口			
		島根			
		鳥取			
支		岡山			
		広島			





G	F	e	E	D	C	B	A	凡例
全把握人員に対する返還者死者未復員者比率	招致者数	同回答数	通信調査發翰数	好資料保有者分布数	返還者の府縣別分布比率	本籍地古話課管内	連絡局同支部管内	

# 収集状況

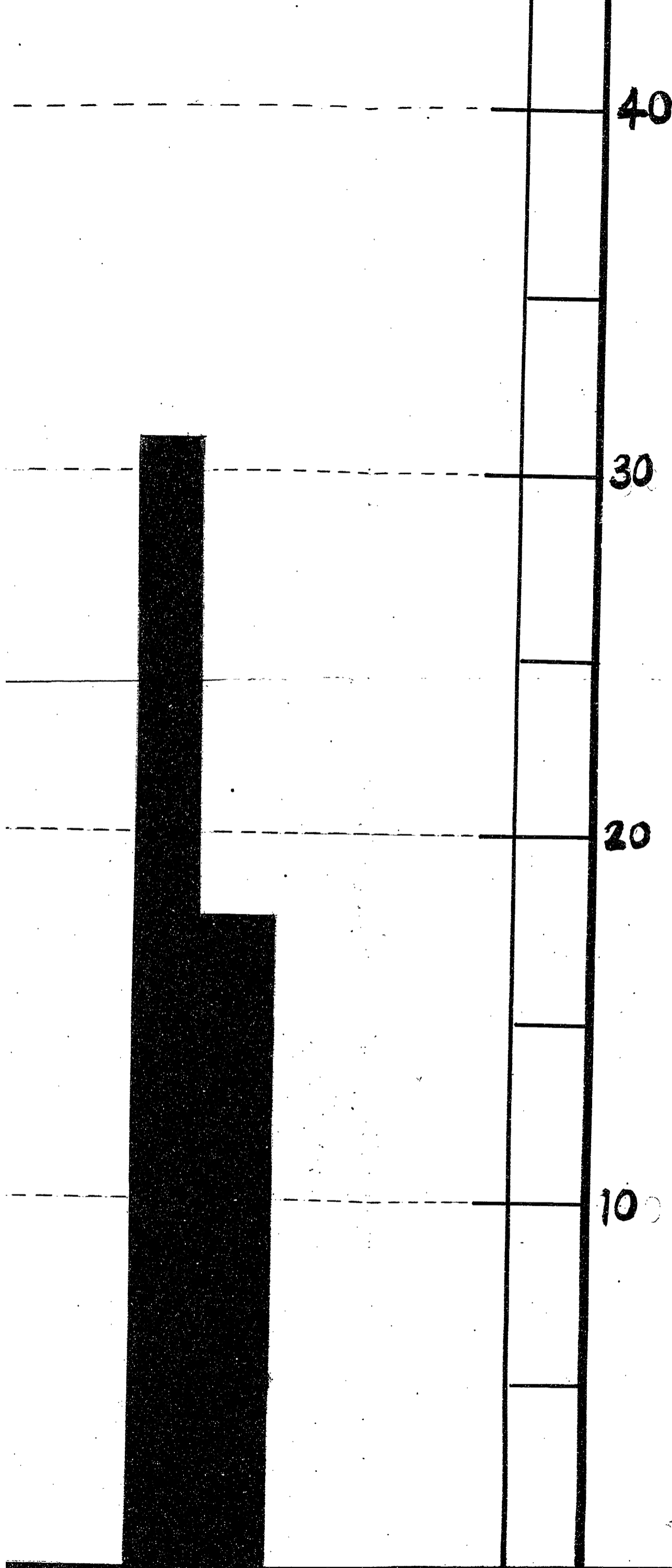
60

50

40

場面別死者

# 亡者未復員者区分一覽表



善  
表

# 表

10

收

H	G	f	F	e
充足人員に対する把握及未把握人員比率	全把握人員に対する選挙者死者未復員者比率	同	招	同
		出	致	回
		席	者	答
		者		
		数	数	数

# 機況圖



戦

中

9

0619